

いつでも、どこでも、迅速的確に対応する消防を目指して



浜松市消防局 消防長 猪又 正次

浜松市は、静岡県西部に位置し、東京、大阪の2大都市のほぼ中間にあたり、中部経済圏の中心となる名古屋市から約109 km、県都静岡市から約77 kmの近距離にあります。

市域は、東西約52 km、南北約73 km、総面積は1,558.06 km²と広大で、市の南北を天竜川が縦断し遠州灘へと注ぎ、西端には浜名湖を臨み、天竜川中流域の中山間地、扇状に広がる下流域の低地、河岸段丘の三方原台地と浜名湖沿岸の丘陵地で形成されています。

うなぎ、みかん、浜松餃子などの全国に認められる食資源、浜名湖をはじめとした観光資源、徳川家康公にまつわる歴史資源、ユネスコ創造都市ネットワークの音楽分野にアジアで初めて加盟し、吹奏楽や伝統音楽の文化を積極的に発信する音楽環境など、世界に誇る強みや魅力を持っています。今年、大河ドラマ「どうする家康」の放送に合わせ、大河ドラマの世界観を体感することができる「どうする家康 浜松 大河ドラマ館」を3月に開館し、家康公、大河ドラマ、そして浜松の魅力を発信しています。

浜松市の歴史を紐解きますと、今からおよそ1万8千年前に遡りますが、本州最古の人類化石として知られる「浜北人」の人骨がこの地で発見されております。正式に「浜松」という地名が登場するのは室町時代であり、1911年に市制施行の条件である人口3万5千人を超え、浜松市が誕生しました。その後は、戦前戦後の飛躍的な工業の成長を経て、平成17年に12市町村の合併により新「浜松市」が誕生、平成19年には政令指定都市へ移行しました。

浜松市を象徴する言葉として「やらまいか」という方言があり、これは「やってみよう」「やってやろうじゃないか」を意味し、新しいことに果敢にチャレンジする精神を表します。これを合言葉に、音楽、自動車産業、光技術産業など世界を代表する企業を輩出し、今なお成長を続けています。

本市においては、令和6年1月に行政区の再編を予定しており、人口減少や少子高齢化などにより激変する社会経済状況や市民ニーズに合わせ、協働センター等の機能を充実させていくなど、市民サービスをより一層向上させる取り組みを推進しています。

また、今年1月には「浜松市DX推進計画」を策定し、デジタル・ガバメントや官民データの活用を効果的に推進し、人に寄り添ったデジタル活用を行うことで、安全・安心、便利で快適な市民サービスの実現を目指しています。

消防局としては、令和6年に予定している消防指令管制システムの更新に向けた準備、ひっ迫する救急事案への対応を目的とした日勤救急隊の運用、また、消防団員の加入促進として、Instagramストーリーズ広告、ジオターゲティング広告等を活用し、動画コンテンツを効果的に女性及び学生のターゲット層に届ける事業を展開するなど、諸施策における消防行政サービスの充実・強化を図り、着実に推進していきます。

これからも、困難な状況を「やらまいか」の精神で乗り越え、市民の安全・安心のため、様々な消防需要に対して順応することで、いつでも、どこでも、迅速的確に対応する消防・救急体制づくりを目指してまいります。